

月刊 あなたにこの本を！ 平成 26 年 11 月号

大阪市立図書館 「あなたにこの本を！」選定委員会

大阪市立図書館が購入した新しい本の中から、図書館員のおすすめの本を紹介します。



…字が大きめ



…中高生にも



…図・写真が多い

※価格のあとに()内の番号は、大阪市立図書館書誌 ID です。



カラフルなぼくら

—6 人のティーンが語る、LGBT の心と体の遍歴—



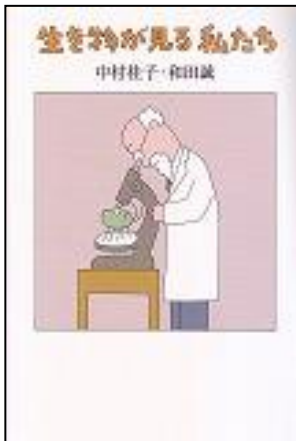
スーザン・クークリン 著

浅尾敦則 訳

ポプラ社 1500 円 (0013022069)

ジャンル：生き方・考え方に学ぶ

LGBTとは、lesbian(女性同性愛者)、gay(男性同性愛者)、bisexual(両性愛者)、transgender(性同一性障がい)の頭文字をとった総称で、性的マイノリティを指す。本書はLGBTの若者たち6人のインタビューと写真を通し、彼らのリアルな姿を描いたものだ。いかに疎外感を感じ、悩み、無理解と戦い、生きてきたのか。そして何に助けられたのか。自分の「性」と「心」を真摯に見つめ、自分らしく生きようとする彼らに、心からエールを送りたくなる。[367.6]



生き物が見る私たち



中村桂子、和田 誠 共著

青土社 1800 円 (0012987161)

ジャンル：知識・教養を深める

本書は、生命科学者の中村とイラストレーターの和田との対談集だ。「理数科が苦手だった」という和田の生き物についての素朴な疑問に、中村がわかりやすく解説する。イチジクの実の中で一生を終える雄バチの話や、葉っぱをたたいて匂いで産卵場所を決めるチョウの話などが語られ、生き物の意外な事実や不思議な現象に驚かされる。対談する二人の軽妙なやりとりも面白く、和田の親しみやすいイラストとも相まって、生命科学をより身近に感じることができる。[460.4]



今ごはん、昔ごはん

松井今朝子 著

ポプラ社 1300 円

(0013000168)

ジャンル：暮らしにうるおいを

京都祇園の日本料理屋に生まれた著者は、時代小説を手がける直木賞作家であり、歌舞伎の脚色や演出に携わった経歴を持つ。子どもの頃から食べてきた美味珍味の思い出や、京都と東京の食の違いについての体験とともに、食にまつわる雑学がユーモアを交え語られる。職業柄古い文献に詳しく、江戸時代の百科事典『和漢三才図絵』等から得た知識を元に、随所で江戸の食文化や和食の由来について紹介している。読後においしいものを味わいたくなる一冊だ。[596.04]

ねずみに支配された島

ウィリアム・ソウルゼンバーク 著 野中香方子 訳
文藝春秋 1800 円
(0013003913)

ジャンル：自然・環境を考える

外来種の侵入により固有種が絶滅することはよくある。ニュージーランドでは飛べないオウム「カカポ」、アリューシャン列島ではウミスズメが、植民者の持ち込んだネズミによって絶滅の危機に追いやられた。本書では、固有種を守るための様々な取組みを紹介する。ウミスズメが生息する島では、ネズミを全滅させる作戦が成功し、その繁殖が確認されている。ただし、残酷なこの作戦への是非が問われてもいて、自然環境を元に戻すことの難しさを考えさせられる。〔481.7〕

家庭用ゲーム機興亡史 ーゲーム機シェア争奪 30 年の歴史ー

前田尋之 著
オークラ出版 1500 円
(0012967239)

ジャンル：現代社会を見つめる

本書は、1972 年から現代までに発売された家庭用ゲーム機の変遷とメーカー同士の攻防を、「メーカーの思惑を考察する」という観点でまとめたものだ。世界的にヒットしたファミリーコンピュータや、それを抑えてトップシェアに躍り出たプレイステーションなど、ゲーム機の特徴や開発秘話をやさしい言葉で解説する。これまでのメーカーの設計思想を読み解くことで、当時は見えなかった勝敗の要因を探り、未来の家庭用ゲーム機産業にも考察を広げている。〔589〕

世界文化遺産富岡製糸場と明治のニッポン



熊谷充晃 著
WAVE 出版 1200 円
(0013008987)

ジャンル：歴史・文化に親しむ

日本の近代化の象徴とも言える富岡製糸場が世界文化遺産に決定した。富岡製糸場は官営模範工場の第 1 号であり、当時の最新技術の粋が集められていた。本書では、富岡製糸場の歴史を、幕末から明治維新にかけての設立の背景から、明治維新後の近代化にいたるまでをわかりやすく解説する。また、製糸場周辺地図や施設案内など豊富な資料に加え、世界遺産の解説も巻末に掲載。近代日本の礎をつくった富岡製糸場のすべてが詰まっている。〔639〕

常識哲学 ー最後のメッセージー

なだいなだ 著
筑摩書房 1500 円
(0012981060)

ジャンル：生き方・考え方に学ぶ

作家で精神科医の著者は、アルコール依存治療の経験の中で「常識」を意識し始めた。西洋哲学上の概念「コモン・センス」が日本語で「常識」と訳されて定着した経過や、良識と常識との違い等、多角的な視点から考察を深めていく。社会に根ざす常識は、偏見を含むため時代と共に変化すべきであり、一方で他者との調和に役立ち、寛容さを持つものだと考えるに至った。本書は、晩年の講演草稿や未刊原稿等を収め、著者の常識に対する信頼の念を明らかにする。〔Eナタ〕